編集後記

2018年の夏は連日記録的な猛暑に見舞われました。気温35℃以上も珍しくはなく、7月23日には埼玉熊谷市で観測史上最高の41.1℃を記録しました。気象庁は「命に関わる危険な暑さ」と警告を出しました。「ためらわずに冷房を使ってください」も繰り返されました。

台風や豪雨による被害も相次ぎました。台風7号は集中豪雨を招き、12号は通常日本付近で偏西風に乗り東寄りにカーブするところを西寄りにカーブする「逆走台風」でした。21号は暴風と高潮で人間が築いた文明を象徴する都市機能にも甚大な被害を与えました。

これらの異常気象は地球温暖化に伴う海水温の上昇に起因するそうです。気象庁「海洋の健康診断表」によると、気温より海面温度の上昇率の方が高い海域があります。地球全体の気候変動も、入ってくる熱が出て行く熱よりも大きい状態が続いているからでしょう。

この状態は人体の場合、「熱中症」から「命に関わる危険」に及ぶこともあります。生命の危機的ラインは体温42℃超なので、今夏の最高気温は42℃に極めて近づいたわけです。人体は産熱と放熱のバランスで体温を調節しますが、発汗も過ぎると脱水症状になります。

熱闘が繰り返された夏の全国高校野球第100回記念大会でも熱中症対策として「給水タイム」が設けられました。地球も人体も「水」の循環が滞ると高熱を発して異常な状態に陥ります。人間のあらゆる活動に熱エネルギーは必要ですが、オーバーヒート過熱は宜しくありません。

研究という知的活動には好奇心を源とする情熱パッションが必要です。「分からない事象を解明したい」という情熱が学藝を発展させてきました。「熱」と「藝」に共通するのは「執」。「何かにくっついて離れようとしなさい」という意味です。人間にとって環境も身心も不可分ですが、ともに「上善治水。水善利萬物而有不静。」(『老子』第八章)を理想としたい夏でした。

今号は、こども学科8件、スポーツ学科3件、人文学部1件、合計12件の投稿がありました。どうぞ高覧ご批評くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

2018年9月吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学部に帰属します》

「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については下記WEBサイトの閲覧をお願い致します。

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html>

金沢星稜大学人間科学研究 第12巻第1号
(通巻第22号)

平成 30 年 9 月 27 日 印 刷
平成 30 年 9 月 28 日 発 行

発 行 金沢星稜大学学会人間科学部会

〒920-8620 金沢市御所町丑10番地1
TEL (076) 253-3984
FAX (076) 253-3998

印刷所 ソノダ印刷株式会社

〒921-8161 金沢市有松4-3-26
TEL (076) 247-5157

金沢星稜大学学会人間科学部会

部会長 奥田鉄人

編集委員 馬場治(委員長)

阿羅功也 天野佐知子